



世界市場における優位性をさらに高めるために、  
未来を見据えた経営姿勢で前進します。

一昨年来の世界同時不況の影響を受け、半導体メーカーの設備投資が大幅に抑制された結果、当社の2010年3月期の業績は売上高4,186億円、営業損失22億円、当期純損失90億円の赤字決算となりました。株主の皆様への配当につきましては、連結当期純利益の20パーセントを原則としておりますが、このような状況のもと、当期は1株につき12円(中間期末4円、期末8円)とさせていただきます。株主を始めとする全てのステークホルダーの皆様からのこの間のご支援に対しまして改めて御礼申し上げます。

当社は、半導体、液晶ディスプレイ等、デジタルネットワーク時代のコアとなる基幹部品の生産に寄与する数々の装置を提供しています。人々の豊かな生活を実現するこうした製造装置には、たゆまぬ技術革新が従来にも増して強く望まれ、その市場には今後も大きな成長が期待できます。

私どもは、製造装置分野の世界的なトップサプライヤーとして、一昨年来の厳しい事業環境におきましても、一貫して変わらぬ経営姿勢で対処してまいりました。短期的には全社の規模で不要不急な固定費削減に取り組む一方、中期的視点をより重視して、未来を見据えた対処に優先して取り組んでまいりました。当社の将来の成長に不可欠な技術開発投資は、従来と変わらぬ高い水準で実施しております。また、長年培った半導体、フラットパネル製造装置技術を活か

して、太陽電池製造装置を始めとする多くの先端技術開拓への挑戦も始まっております。このような時代となり、技術力、資金力で勝る当社にとりましては、より差別化を実現できる魅力的な時代が到来していると申し上げても過言ではないと考えております。

私どもが参入している市場は、人々のありとあらゆる生活に深く関与しているがゆえに、世界経済が明るさを取り戻しつつある中、他産業に比して急速な復活を遂げ、現在では多くの製造装置がフル生産状況にあります。今後も一時的な景気の上げ下げはあるとしても、それに一喜一憂することなく、製造装置のグローバルリーダーとしての責任の大きさを改めて自覚し、お客様に、そして社会に、高い価値を提供してまいりたいと思います。また、事業の拡大、技術革新の強化、そして経営効率の向上に注力し、皆様にとりましてより魅力のある企業になれるよう努力してまいりますので、今後とも変わらぬご理解、ご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 竹中 博司